

重点項目	豊かな心の育成 【徳】
重点課題	教師と生徒、生徒同士の信頼関係を構築し、共感的な人間関係を育むために、自治活動に協働的に取り組むことができる。
現 状	本校では、教師と生徒、生徒同士の信頼関係をより高め、学級で各々が安心して発言し、他の発言が受容される集団を構築したいと考え、学級や学年の諸活動、生徒会を中心とした学校行事に取り組んでいる。しかし、総合質問紙調査 i - c h e c k の結果を見ると、生徒の自己肯定感の項目の値がかなり低いことが課題とされる。また、生徒間に共感的な人間関係が十分に構築されているとは言えないのが現状である。以上のことから、学級・学年の諸活動、生徒会活動を含めた学校行事を通して、生徒一人一人が様々な活動に協働的に取り組み、その頑張りを互いに認め励ますことで、共感的な人間関係を醸成し生徒の自己有用感を高めたい。
具体目標 数値指標	・総合質問紙調査 i - c h e c k の結果から、自己肯定感に関する項目の肯定的な回答の割合が90%以上になることを目指す。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒のよさや可能性を積極的に見付け、生徒理解に努め、生徒の様子をよく観察して教員間でどんな些細なことでも共有する。</li> <li>・学級討議や学年委員会、学校行事等の振り返りシートを生かした集団づくりを推進する。（各学年によるプロジェクト等の実施）</li> <li>・生徒リーダーを育成し、生徒の手による自主的、実践的な生徒会活動を推進する。</li> <li>・授業や学級活動で自分の意見を伝えたり、人の意見を聞いたりすることで多くの気づきや学びを得られるような手立てを工夫する。</li> <li>・構成的グループエンカウンター、ソーシャルスキルトレーニング等を通して、よりよい人間関係づくりに努める。</li> <li>・道徳の授業を通して、様々な意見や価値観に気付けるような手立てを工夫する。</li> <li>・総合質問紙調査 i - c h e c k の結果（5月／11月実施）を踏まえて、生徒理解のための面談等を実施する。</li> </ul>
外部評価者	学校評議員、保護者
公開の方法	学校評議員会、学校だより、ホームページ等